



第85号 令和5年2月

編集発行 庄内教育事務所 指導課
〒997-1301
東田川郡三川町大字横山字袖東7番1号
Tel.0235-68-1982/FAX0235-66-3015

中一ギャップを防ぐ“のりしろ”の取り組み

12月13日に魅力ある学校づくり調査研究事業の第3回庄内ワーキンググループを開催しました。国立教育政策研究所、高橋典久総括研究官による中学校生活をスムーズに始めるための「のりしろ」を意識したプログラムづくりの講義・演習を行いました。参加者は、グループ毎に中学校0年生の取り組みと小学校7年生の取り組みのアイデアを出し合い、新規不登校生徒を抑制するための魅力ある学校づくりを目指した小中接続について研修を深めました。

モデル校区
三川中
横山小
東郷小
押切小

行事改善 + 授業改善
= 魅力ある学校づくり

協力校区
酒田三中
亀ヶ崎小
松原小

モデル校区の三川中学区、協力校区の酒田三中学区の各小中学校が、児童生徒にとって魅力ある学校づくりを行うことで不登校の未然防止につなげる本事業に取り組んでいます。三川町の各小中学校では町の重点である「学びが楽しい・かかわりが楽しい・また明日来なくなる学校」の実現に向け、自校と町全体の課題を共有しながら連携を図って実践しています。三川中では昨年度、行事改善

による「居場所づくり」「絆づくり」に力を入れ成果を上げてきました。しかし、行事後に上がった「子どもの声調査」の数値が、その後下がることから、今年度は、行事改善と授業改善の両方に力を入れて取り組んでいます。

協力校区でも、「子どもの声調査」をもとに、児童生徒が楽しいと思う授業、行事等の改善に取り組んでいます。

今年度でこの事業は終了しますが、庄内の各校に成果を発信してきたいと考えています。



幼児教育と小学校教育をつなぐ

「スタートカリキュラム」

小学校に“慣れる”カリキュラムから学びを“つなぐ”カリキュラムへ

「学習指導要領」や改訂された「幼稚園教育要領」等では、幼稚園・認定こども園・保育所での教育及び保育との円滑な接続を図るよう努めることとされています。

幼児期の「自発的な活動としての遊び」を通して育まれた資質・能力を、児童が思う存分発揮できるように、小学校の教育活動全体を対象として、カリキュラムをデザインすることが求められます。

自校・自園の幼小中の相互交流事業を通して、育ちや学びの姿を共有する場を大事にしていきたいと思えます。



令和4年11月14日 みかわ幼稚園訪問より

幼児教育では

- ・ 幼児の内面や活動の意味を捉え、遊びの中で何が育っているか、意見交換を行う。
- ・ どのような学びにつながっているか。

↓
幼児の育ちや学びの姿を共有する。

学びを生かす
つなぐ

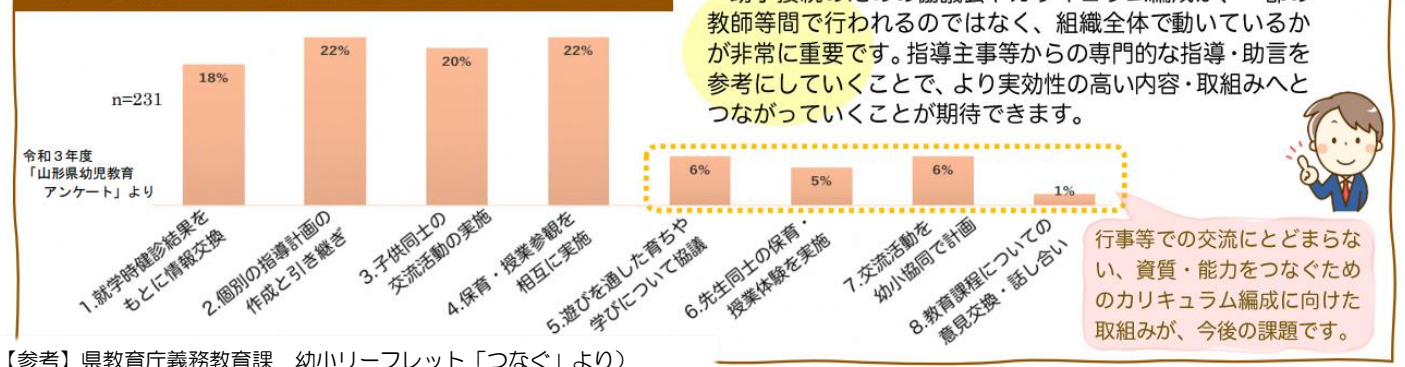
小学校では

- ・ 幼児期の育ちをどのように発揮しているか。
- ・ 児童が安心して学習を広げていける環境になっているか、「環境を通して行う教育」の視点から意見交換を行う。

中学校でも

根っこにある、育っている力を
生かす・伸ばす

幼小接続のための協議会等の内容について



計画指導訪問校に学ぶ Vol.3

【三川町立みかわ保育園・幼稚園】 (齋藤 正志 園長) 11月14日訪問

保育・教育目標 「心豊かで たくましい子どもに育てる」～遊びの中で、自主性と思いやりを育む～

- (1) 目指す子どもの姿を4つの柱(じょうぶな子ども・思いやりのある子ども・がんばる子ども・考える子ども)を土台に、3つの資質能力、そして5つの領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」を通して、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿を意識した保育・教育の一体的な推進に取り組んでいる。
- (2) 「ごっこ遊びを通して協同性を育む」を研究主題に、子どもの気づきを促す環境づくりや、活動をタブレットで記録し、次へのつながりを意識付けさせるなど、子どもの経験や遊びを学びにつなげる実践に取り組んでいる。
- (3) 三川町教育研究所の教育課題「保幼小中一貫性のある教育の研究」により、職員の双方向参観、児童生徒の交流を行い、遊びと学びを通して資質・能力の連続した育成を目指している。

【鶴岡市立朝陽第一小学校】 (鈴木 郁生 校長) 12月7日訪問

教育目標 「たくましい子どもの育成」

- (1) 「藩校致道館教育」の伝統と、「令和の日本型教育」の目指すところは軌を一にするものである、という共通認識から、昔から大事にしているものをしっかり受け継ぎ、地域づくりと教育を共に進めている。令和5年度から学校運営協議会を設置し、地域総がかりの教育基盤形成を目指している。
- (2) 子どもたちが実際にお互いの顔を見て話し合う場を確保し、力を合わせてやり遂げる体験活動を意図的に設定し、成就感、自己肯定感の感得に努めている。
- (3) 日課表を工夫し、研修や教材研究の時間を放課後に設け、働き方改革を推進している。育成したい資質・能力や評価のあり方について熟議を重ねるなど、職員全体でOJTを推進している。